

2026年12月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年5月14日
株式会社ナカニシ

免責事項

資料に記載されている情報は、将来の業績に関する見通しが含まれています。これら見通しには不確定要素が含まれており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、世界経済の変化や為替相場の変動等により、予想数値とは異なる場合があります。予めご了承下さい。

© 2026 NAKANISHI INC.

執行役員CFOの鈴木です。
カンファレンスコールにご参加くださり、ありがとうございます。
早速ですが決算ブリーフィングを開始いたします。

歯科事業

Dental Business

補綴歯科治療・歯周病治療・インプラント治療・訪問歯科診療など、広範な歯科治療をカバーする歯科治療機器の開発・製造・販売を行っています。



歯科用ハンドピース



インプラントモーター



超音波スケーラー



歯科用電気モーター

DCI事業

DCI Business

2023年に買収した米国デンタルチェアメーカーDCI社の業績を示すためにセグメントを新設。北米市場向けにデンタルチェアおよびデンタルパーツの開発・製造・販売を行っています。



デンタルチェア



デンタルキャビネット



デンタルチェア用パーツ

外科事業

Surgical Business

脳神経外科・脊椎脊髄外科・整形外科等の医療分野で使用される外科手術用の骨切削ドリルの開発・製造・販売を行っています。

2026年に買収したAcra Cut-Intechの業績は外科事業に含まれます



コンソール



モーター&アタッチメント



ティスポーザブル(バー)



ティスポーザブル(パーフォレーター)

機工事業

Industrial Business

自動車・精密部品等、幅広い製造分野の微細・精密加工で使用されるモータースピンドルの開発・製造・販売を行っています。



コントローラー&スピンドル



増速スピンドル



超音波カッター



先端工具

© 2026 NAKANISHI INC.

歯科・DCI・外科・機工のすべての事業で二桁増収を達成。特に歯科-国内と外科が伸長。連結売上高は前年比+21%、為替影響を除いても+15%の増収。

*Q1決算数値に買収2社(Acra Cut・Intech)の業績は含まれない。Q2から連結対象となる予定。

工場の増産で単体粗利率は改善するも、未実現利益や米国関税の影響で連結粗利率は2ポイント低下。増収に伴う利益増加のほか、一部の研究開発計画の未消化によって連結EBITDAは前年比+23.6%の増益。

事業成長に伴う営業増益に加え、為替差損益の改善や前年の過年度法人税等の影響がなくなったことで、親会社株主に帰属する四半期純利益は大幅増益。

業績のハイライトです。

非常に強い結果となりました。各事業、各地域で強い結果を出せています。どこかひとつに偏るといっても、全般的に良い状況でした。

今期業績予想を策定していた際の市場予測としては、コロナ特需後の需要の反動減から脱し、徐々に需要回復に向かうものと見込んでいました。しかし、この第1四半期の需要は概ねフラットでした。前年からあまり変わっていません。

このような市況の中、好業績を出せた背景をこのあとご説明してまいります。

百万円

		当期実績	前年同期	前年同期比	
		2026/03	2025/03	増減額	増減率
売上高		22,488	18,542	+3,946	+21.3%
売上総利益		12,935	11,076	+1,858	+16.8%
	利益率	57.5%	59.7%	-2.2pt	-
EBITDA*		5,876	4,755	+1,120	+23.6%
	マージン	26.1%	25.6%	+0.5pt	-
営業利益		4,675	3,361	+1,313	+39.1%
	利益率	20.8%	18.1%	+2.7pt	-
経常利益		5,548	2,626	+2,921	+111.2%
	利益率	24.7%	14.2%	+10.5pt	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		3,980	440	+3,539	+803.9%
	利益率	17.7%	2.4%	+15.3pt	-
E P S	(円)	47.93	5.23	-	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

為替レート	- 米ドル	(円)	156.48	152.95	+3.53	-
	- ユーロ	(円)	183.73	160.74	+22.99	-

* 為替影響額：売上高 +1,031百万円(前年同期比) +1,050百万円(予想レート比)

© 2026 NAKANISHI INC.

4

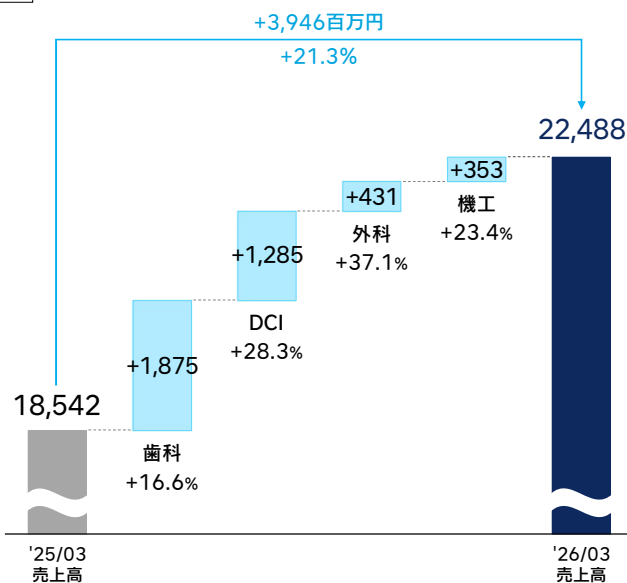
損益計算書のポイントは大きく2つ、補足的に1つご説明いたします。

ポイントのひとつは、連結粗利率が前年同期に比べ2ポイント低下したことです。売上高が21%増収となったので、本来ならば粗利率も向上するところですが、米国政府による関税政策の影響で売上原価が約5億円増えました。前年同期はまだ関税影響を受けておらず、前年同期と比べた場合には粗利低下の要因となりました。

もうひとつのポイントは、四半期純利益が約35億円増加している点です。前年同期比という軸で各要素を整理しますと、営業増益によって+13億円、為替差損益の改善（前年同期は為替差損を計上、今期は為替差益を計上）によって+16億円、特別損益の改善（前期に計上した過年度法人税等の剥落と、税引前純利益の増加に伴う法人税の増加の差し引き）によって+6億円、それぞれ純利益を増加させました。

補足として、為替レートについて触れたいと思います。米ドルは業績予想レート、前年同期レートと比べてもあまり大きな変化はありません。一方、ユーロはかなり円安が進んでいます。第1四半期の実績レートが184円となり、業績予想レート：170円から大きく乖離（業績かさ上げ）しています。

百万円



	前年同期 2025/03 A	当期実績 2026/03 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
歯科事業	11,323	13,199	+805	+16.6%
DCI事業	4,547	5,832	+104	+28.3%
外科事業	1,164	1,596	+46	+37.1%
機工事業	1,507	1,860	+73	+23.4%
合計	18,542	22,488	+1,031	+21.3%

© 2026 NAKANISHI INC.

5

事業セグメント別の売上高の状況です。

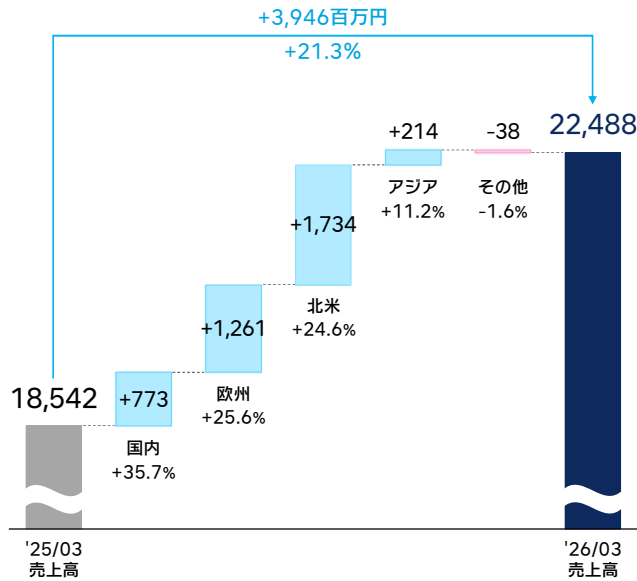
ご覧いただいているとおり、すべての事業の売上高が二桁成長という大きな伸びを示しています。為替による押し上げもありましたが、これを除いても大幅増収となりました。

歯科事業・外科事業の売上成長はサステナブルで、この強いモメンタムが当面続くだろうと見込んでいます。一方、DCI事業・機工事業では、モメンタムを維持できるか、減速するか見極める必要があります。

DCI事業のトップライングロースには、値上げ前の駆け込み需要が含まれています。この駆け込み需要と、昨年から強化してきた販売網強化によるオーガニックグロースが重なっています。この第1四半期は、値上げ前の一時的な需要増加で出荷数量が伸びたことによる増収が多分に含まれる点に注意ください。おそらく第2四半期末から第3四半期にかけて、需要の反動減が出てくるもの見込みですが、一方で値上げによる単価アップの恩恵も出始めます。どこまでオフセットできるのか、大きなポイントになってきます。プライベートクリニック向けの販売強化や政府機関・大学向けの取引拡大など、値上げ後の反動減の抑制に努めていきます。

機工事業では、ナカニシ製品のみならずイエガー製品の販売が伸長しました。但し、イエガーはまだ再建途中にあり、製品販売の先行きには不透明感が残っています。

百万円



	前年同期 2025/03 A	当期実績 2026/03 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
国内	2,168	2,942	-	+35.7%
欧州	4,934	6,196	+658	+25.6%
北米	7,052	8,787	+155	+24.6%
アジア	1,915	2,130	+62	+11.2%
その他	2,471	2,433	+155	-1.6%
合計	18,542	22,488	+1,031	+21.3%

© 2026 NAKANISHI INC.

6

地域別の売上高の状況です。特に国内と欧州が力強く伸ばしました。

国内では昨年10月に流通網の改革を行いました。この第1四半期にはその効果が表れてきています。現在の状況を見ると、第2四半期以降もこの強いモメンタムを維持できるものと見込んでいます。

欧州ではどこか一部の地域が伸びたというわけではなく、多くの国で売上が伸びました。とくにドイツなど大きな商圏をもつ主要な国では軒並み増収となりました。何か特筆すべき要因はなく、昨年発売したオーラルハイジーンの新製品をはじめ、幅広い製品で売上が伸びています。この勢いはしばらく続く見込みです。

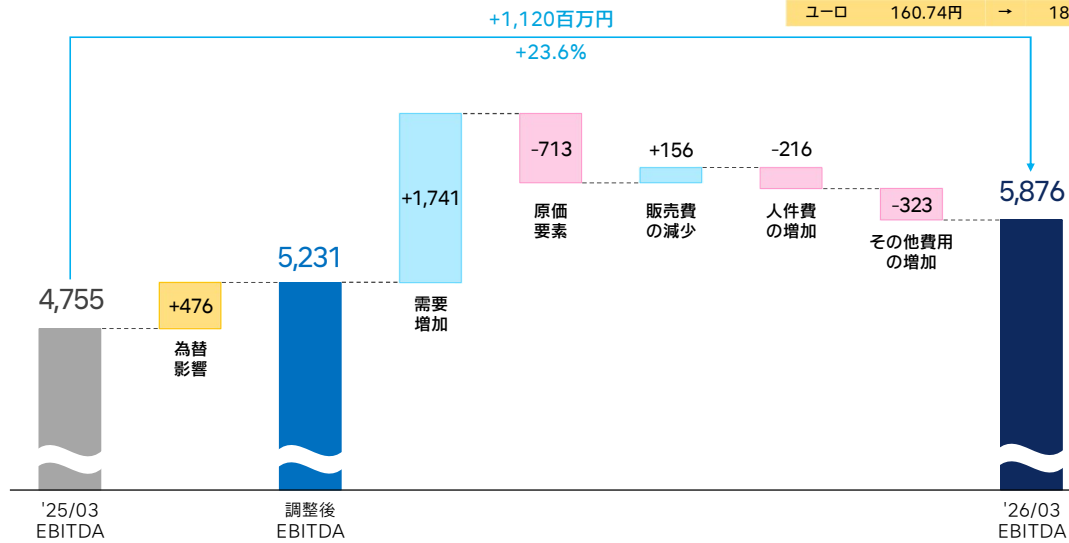
北米の増収17億円のうち、13億円はDCIがドライバーで、残り4億円のうち主な成長分野は外科事業でした。歯科事業は計画に比べてやや弱含んでいます。自社ブランド販売は二桁成長しましたが、OEM販売が落ち込みました。

アジアで、厳しい市況が続いている中国で入札案件を獲得して販売を伸ばしましたが、韓国やその他東南アジアの販売は低迷し、中国の伸びを相殺してしまいました。アジアは厳しい局面が当面続くものと想定します。

その他地域では、ロシア・オセアニアが伸ばしたものの、南米では出荷の期ずれ、中近東では紛争拡大により、販売が落ち込みました。但し、南米は一過性の要因で落ち込んでいるだけで、第2四半期以降は回復する見込みです。

百万円

平均為替レート		
	2025/03 実績	2026/03 実績
米ドル	152.95円	→ 156.48円
ユーロ	160.74円	→ 183.73円



© 2026 NAKANISHI INC.

7

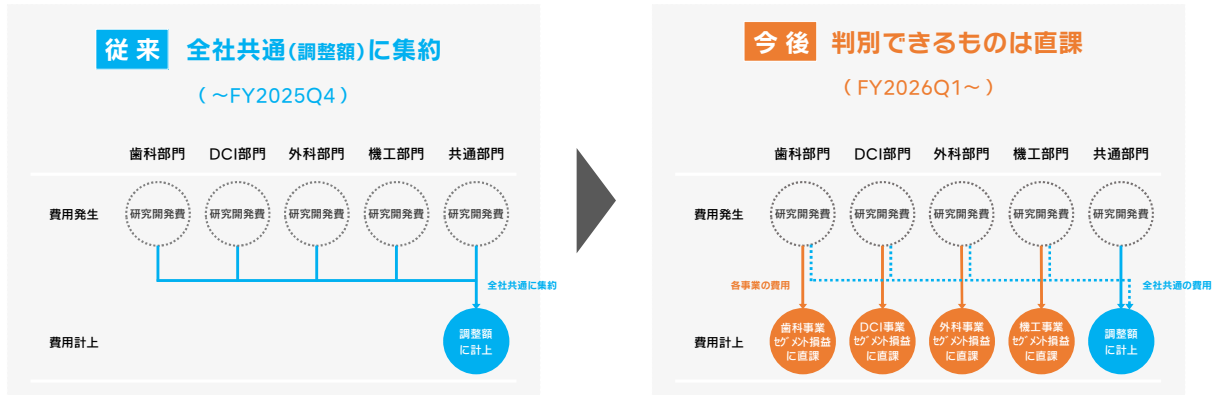
EBITDAの要素別の増減です。

いつもご質問をいただく「原価要素」についてご説明いたします。まずは、米国政府による関税政策の影響です。前年同期は関税発動前でしたので、約5億円の減益要素となりました。需要回復に伴い工場の稼働が高まってきた局面でしたので、工場稼働改善（在庫の増加）に伴う売上原価低減効果で約8億円の増益効果と、海外子会社の在庫増に伴う未実現利益増加の影響で約9億円の減益効果が打ち消し合いました。これらをネットしていただくと原価要素のマイナス7億円の内訳をほとんど説明したことになります。

次に販売費の減少です。2025年のInternational Dental Show2025出展費用の剥落が大きいです。これは来年戻る（IDSは隔年開催で、来年はIDS2027に出展）こととなります。人件費の増加は会社計画に収まっており、想定内です。

最後にその他費用の増加で約3億円の減益となった点です。これは研究開発費の一部の消化が遅れました。期首計画ではあと2億円ほど追加で費用を消化する予定となっていました。研究開発費の未消化は主に外科事業によるものですが、今後予算の消化が進む見込みです。

NV2030目標達成に向けて各事業で成長投資に着手 研究開発費を事業毎に明確化して収益管理を精緻化



© 2026 NAKANISHI INC.

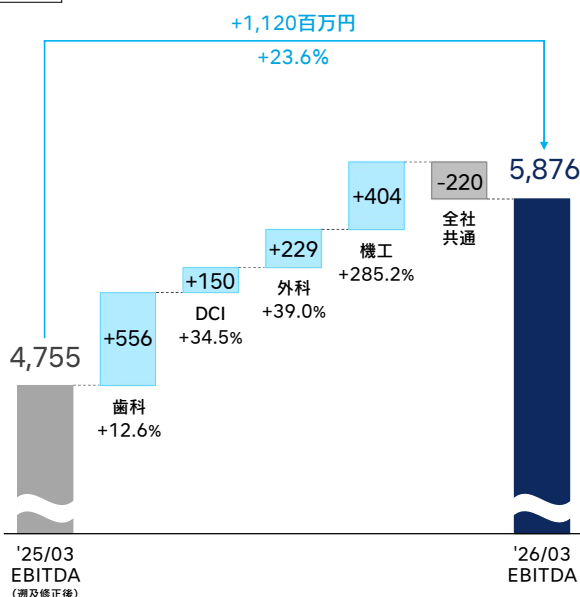
8

2026年12月期から研究開発費の計上方法を見直しました。これにより、セグメント別の利益の見え方が変わるのでご説明いたします。

従来、研究開発費は基本的に全社共通費用として「調整額」セグメントに割り振っていました。従来は研究開発費のほとんどが歯科事業であり、また、歯科事業の売上高比率が高かったため、このようにしておりました。

しかし、中期経営計画「NV2030」でも掲げているとおり、今後は外科事業をさらに成長させていくべく、積極的に研究開発費も積み増していきます。このため歯科以外の研究開発費も大きく増えますので、従来のやり方を改め、事業ごとに区分できる研究開発費はその事業に直課していく方法に切り替えました。

百万円



	前年同期実績 2025/03 A	遡及修正した 前年同期実績 2025/03 A'	当期実績 2026/03 B	増減率 B/A'-1
歯科事業	4,731	4,421	4,978	+12.6%
DCI事業	436	436	587	+34.5%
外科事業	631	587	817	+39.0%
機工事業	164	141	546	+285.2%
全社共通	-1,208	-832	-1,052	-
合計	4,755	4,755	5,876	+23.6%
為替影響額 (前年同期比)			+476百万円	(+10.0%)

© 2026 NAKANISHI INC.

9

前ページでご説明しました研究開発費の割り振りを遡及修正した前年同期のEBITDAを対比軸として示しています。

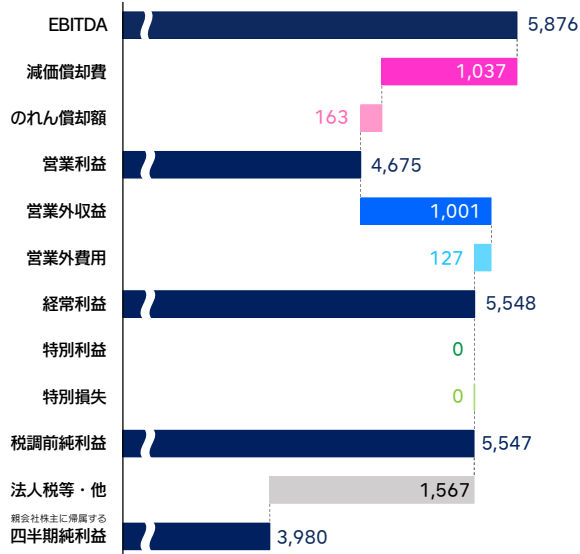
右側のマトリックスにあります「A前年同期実績」と「A' 遡及修正した前年同期実績」それぞれの「全社共通」費用の部分を見ていただきますと、Aはマイナス12億円、A'はマイナス8億円となっています。この差額の約4億円が各事業に割り振られた研究開発費に相当します。「全社共通」から各事業セグメントへの割り振りです。これにより、各事業の収益性をより正確に把握できます。

なお、本ページでは、2つのトピックスがあります。

1つ目は、DCI事業の収益性です。高いのではないかと思われた方もいらっしゃると思います。前年同期のEBITDAマージンが9.6%、当期実績では10.1%です。当期実績には米国関税影響として約\$2Mを含んでいますが（前年同期は関税影響はほとんど無い）、これを打ち返しています。また、当期実績にはまだ値上げによる単価・マージン改善効果は表れていません。増収影響が効いていることとなります。これは顧客ポートフォリオが変わったことによるマージン改善が進んでいることを示しています。つまり、DSOビジネスが減り、プライベートクリニック向け販売が安定的に伸びてきていることが寄与しています。このほか、歯科大学向けビジネスも伸びており、DCI事業の収益性の改善につながっています。

2つ目は、機工事業の収益性改善です。EBITDAマージンをみると、前年同期は9.4%にとどまっていたですが、当期実績は29.4%まで良化しました。イエガーの黒字転換が大きく寄与しています。イエガーの再建は進んでおり、収益構造も良くなってきました。ただし、これはまだ3カ月間の短い期間における結果であり、再建自体は途上、そして、今後の業況は一進一退を繰り返す可能性が残っています。

百万円



営業外収益	・受取利息	344
	・為替差益	533
	・雑収入	113
営業外費用	・支払利息	71
	・雑損失	56
特別利益	(計上無し)	
特別損失	・固定資産除却損	0.8

百万円

	当期末 2026/03	前期末 2025/12	増減額	主な増減内容
総資産	165,775	160,155	+5,619	・投資その他の資産 - その他 +6,449 (Acra Cut・Intech関連)
- 現金及び預金	60,068	61,317	-1,248	
- 棚卸資産	26,485	25,565	+920	・商品及び製品 +181 ・仕掛品 +224 ・原材料及び貯蔵品 +514
- のれん	5,359	5,391	-31	
負債	49,373	46,081	+3,292	・未払法人税 -1,941
- 有利子負債	32,695	26,772	+5,922	・短期借入金 +4,953 ・1年内返済長期借入金 +1,018 ・長期借入金 -50
純資産	116,401	114,074	+2,327	・為替換算調整勘定 +706
- 利益剰余金	111,701	110,046	+1,655	

	当期実績 2026/03	前期実績 2025/03	増減額	当期実績の主な内容
設備投資額	725	1,031	-306	・機械装置 330 ・子会社新社屋 132
減価償却費	1,037	1,021	+15	

© 2026 NAKANISHI INC.

11

バランスシートのトピックスは2点あります。

1つ目は、「投資その他の資産-その他」の増加です。Acra Cut社、Intech社の買収が4月1日付で行われましたが、当期のバランスシートはその前日、3月31日付で、売手への支払いは済んでいます。対象会社の連結はまだされていない状況です。構造に変化が生じていたということです。少し歪んだバランスシート生んでしまっておりますので、上半期末のバランスシートを見ていただくと、本来の構造となりますのでご確認ください。

2つ目は、棚卸資産の中の「原材料及び貯蔵品」が約5億円増加している点です。先般から報道されておりますとおり、中東情勢の悪化に伴い、新たなサプライチェーンの問題が起き始めております。オイル、包装材等の影響が懸念されます。また、輸出規制から外れる希土類フリーの材料への切替など対応は進んでいるものの、中国政府によるレアアース輸出問題も長期化しています。このような中、一部材料の在庫を積み増しています。

以上で説明を終わります。

2026年12月期 連結業績予想

(2026年3月5日修正)

百万円

	当期予想 2026/06	前期実績 2025/06	増減額	増減 増減率
売上高	44,374	39,189	+5,184	+13.2%
売上総利益	24,430	23,104	+1,326	+5.7%
利益率	55.1%	59.0%	-3.9pt	-
EBITDA*	10,183	10,390	-207	-2.0%
マージン	22.9%	26.5%	-3.6pt	-
営業利益	7,481	7,587	-105	-1.4%
利益率	16.9%	19.4%	-2.5pt	-
経常利益	7,501	6,930	+571	+8.2%
利益率	16.9%	17.7%	-0.8pt	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	5,308	3,510	+1,797	+51.2%
利益率	12.0%	9.0%	+3.0pt	-
E P S (円)	63.53	41.84	-	-

為替レート

- 米ドル	(円)	150.00	149.01	+0.99	-
- ユーロ	(円)	170.00	162.62	+7.38	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

売上高 901億円 (+11.1%)

■ 販売管理費 ……

全事業増収で、6期連続で過去最高売上高の更新を見込む

外科事業の成長投資として、販売費・人件費・研究開発費の増加を見込む

EBITDA 218億円 (+9.8%)

■ 減価償却費 ……

増収効果とAcraCut買収効果で、最高益の更新を見込む

DCIののれん償却負担が低減

営業利益 162億円 (+15.1%)

■ 営業外損益 ……

増収・買収効果と償却費減で、4期ぶりの最高益を見込む

前期に計上した為替差益15億円が剥落

経常利益 160億円 (-5.0%)

■ 特別損益 ……

■ 法人税等 ……

前期に計上した為替差益の剥落により、減益を見込む

前期に計上した減損損失137億円が剥落

前期に計上した過年度法人税等11億円が剥落

親会社株主に帰属する
当期純利益 111億円 (-)

一過性の費用の剥落により、純利益の黒字化を見込む

百万円

		当期予想 2026/12	前期実績 2025/12	増減額	増減 増減率
売上高		90,185	81,179	+9,006	+11.1%
売上総利益		50,176	46,060	+4,116	+8.9%
	利益率	55.6%	56.7%	-1.1 pt	-
EBITDA*1		21,854	19,899	+1,955	+9.8%
	マージン	24.2%	24.5%	-0.3 pt	-
営業利益		16,215	14,089	+2,126	+15.1%
	利益率	18.0%	17.4%	+0.6 pt	-
経常利益		16,091	16,933	-842	-5.0%
	利益率	17.8%	20.9%	-3.0pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益		11,193	-2,398	+13,591	-
	利益率	12.4%	-3.0%	+15.4 pt	-
E P S	(円)	133.96	-28.70	-	-
設備投資額		15,354	5,302	+10,051	-
減価償却費		4,559	4,343	+216	-
為替レート					
- 米ドル	(円)	150.00	150.43	-0.43	-
- ユーロ	(円)	170.00	169.18	+0.82	-

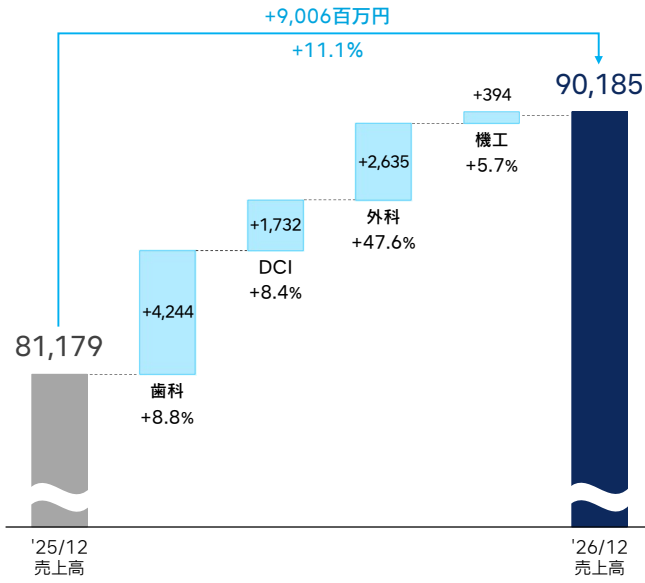
ナカニシ単体：3,101
グループ各社：12,253 *2

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額 *2 前回予想から4,050百万円増加 (主にDCI・NSK Americaの設備投資額の増加)

© 2026 NAKANISHI INC.

15

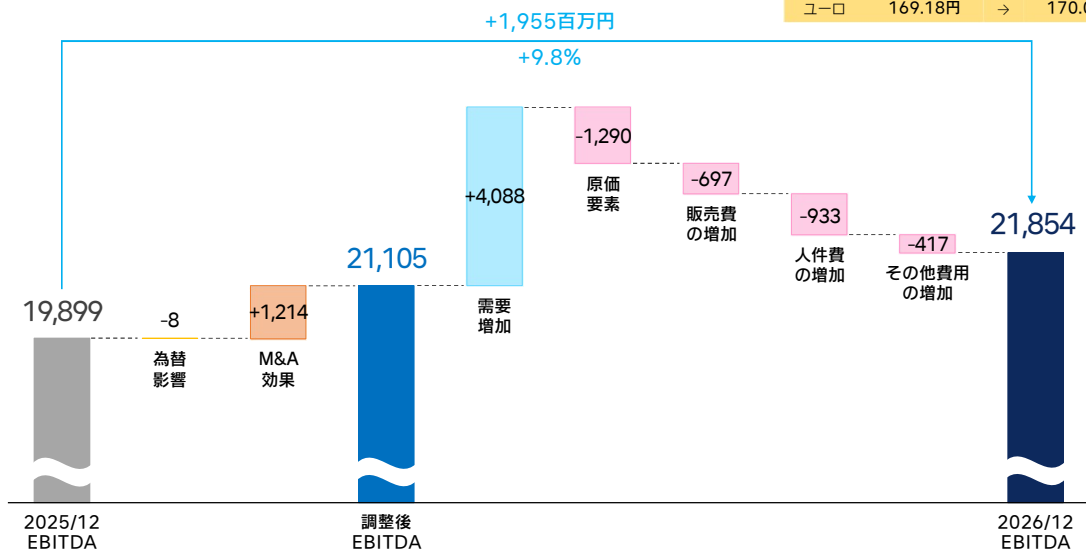
百万円



	前期実績 2025/12	当期予想 2026/12	増減
歯科事業	48,197	52,441	+8.8%
DCI事業	20,538	22,270	+8.4%
外科事業	5,537	8,173	+47.6%
機工事業	6,906	7,301	+5.7%
合計	81,179	90,185	+11.1%
為替影響額 (前期比)		-204百万円	(-0.3%)
M&A効果		+2,005百万円	(+2.5%)

百万円

平均為替レート		
	2025/12 実績	2026/12 予想
米ドル	150.43円	→ 150.00円
ユーロ	169.18円	→ 170.00円



Topics

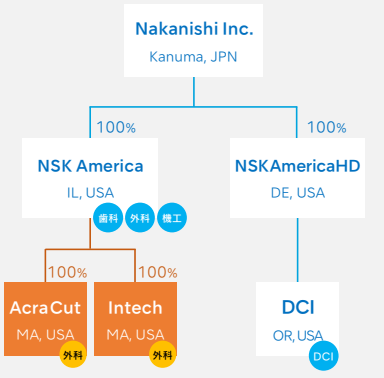
[ストラクチャー]

NSK AmericaがAcra Cut・Intechの株式を取得し完全子会社化

取得金額：非公開(株式取得+アーンアウト)

取得原資：現預金および借入金で充当

日程：2026年4月1日に株式取得完了



[会社概要]

Acra Cut, Inc. (アクラカット)	Intech, Inc. (インテック)
所在地 米国 マサチューセッツ州 アクトン	所在地 米国 マサチューセッツ州 アクトン
従業員数 12名	従業員数 21名
会社設立 1982年7月	会社設立 1966年4月
事業内容 脳神経外科用医療機器の開発・製造・販売	事業内容 精密部品の製造
主な製品 自動停止機能付き頭蓋骨穿孔器(バーフォレーター) 他	主な製品 Acra Cut製品を構成する精密部品



▲頭蓋骨穿孔器(バーフォレーター)



▲ Acra Cut・Intech 本社

関連資料

- ・2026年3月5日 当社連結子会社による株式取得(孫会社化)に関するお知らせ
- ・2026年3月5日 臨時カンファレンスコール資料(Acra Cut・Intechの買収について)スクリプト付

NAKANISHI INC.

Most Honored Company

2026 Japan Executive Team



Medical Technologies & Services,

- Most Honored Company 2nd
- Best CEO 1st
- Best CFO 1st
- Best Company Board 3rd
- Best IR Program 2nd

MSCI
ESG
RATINGS



CCC B BB BBB A AA AAA

As of Mar 2026

MSCI ESG rating history

- Aug 2024: A
- Sep 2023: A
- Oct 2022: BBB
- Mar 2021: BB
- Aug 2020: B



2026 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MORNINGSTAR
日本株式ジェンダー
ダイバーシティ・ティルト指数



企業ホームページ
優秀サイト
2025
日興アイ・アール
スタンダード市場部門

DISCLAIMER STATEMENT:
THE USE BY NAKANISHI INC. OF ANY MSCI SOLUTIONS LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF NAKANISHI INC. BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.
THE INCLUSION OF NAKANISHI INC. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF NAKANISHI INC. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

NSK